

## 活動の概要

関西は、古くからものづくり産業の中心となった大阪、iPS細胞など世界の研究をリードする京都、先端医療技術の研究開発拠点を有する神戸など、新しい産業分野を拓いて参りました。

バイオコミュニティ関西は、グローバルな課題を解決する最先端のバイオエコノミー社会の実現に貢献することをビジョンに掲げ、国内外問わずバイオ界の連携を強化するネットワーク機関として活動しております。

## 活動の特徴

### ①分科会

バイオ分野の新事業を立ち上げ社会課題を解決するために、オープンイノベーションを推進するプロジェクトチーム＝「分科会」を組成して活動しております。

リーダー企業が中心となり、関西内外の機関を巻き込み、技術や知識を連携させて1企業単独や1研究機関単体では解決困難なテーマを挙げて取り組んでおります。また、国などにより設置された産学連携プロジェクトとも密接に連動しております。

### ②バイオものづくり

2050年を見据えた社会課題として、環境・エネルギー／食・一次生産／ヘルスケアの分野を抽出し、その中で現在29の分科会が活動しています。

中でもバイオものづくりに関する分科会は、バイオファウンドリ・クラスター分科会、分析・計測分科会、ホワイトバイオ分科会と、バイオ産業人材育成分科会の4つがそれぞれ明確なコンセプトの基、時には領域を越えて連携し、コミュニケーションを密に取りながらオープンイノベーションの成功に向けて進んでいます。

## 今後の方向性・課題等

オープンイノベーションの成功に向けて、ご紹介しました分科会と、全国のバイオコミュニティの皆様や海外バイオクラスターとの連携強化を進めて参ります。バイオコミュニティ関西は多種多様な人・モノ・情報を「つなぐ」ことで貢献します。共にオープンイノベーションを成功させ、グローバルに発信していきましょう。

### バイオコミュニティ関西について

ビジョン	持続可能な社会実現のため、バイオファーストの発想を広げ、グローバルバイオコミュニティの形成をめざす	「連携」が意味すること ネットワーク機能を中心として、コミュニティ内の人と情報の交流を促進することにより、各機関が抱える状況を深く理解し、適切な情報共有が進む状態をつくり出し、必要パートナーと協力し、人・モノ・金・情報の好循環が進み、経済的な成長を達成するとともに、グローバルな存在感を確立している状態
ゴール	関西を拠点にバイオ分野における究極のエコシステムをつくる	
キーワード	「集積」から「連携」へ つなぐ、つなげる、つながる	

名称	✓ バイオコミュニティ関西 ✓ Biocommunity Kansai ✓ 略称 BiocK (バイオック)
設立・認定	✓ 2021年7月1日設立 ✓ 2022年4月22日 内閣府より ✓ グローバルバイオコミュニティに認定
アクションプラン	✓ イノベーションの促進 ✓ ネットワーク形成促進 ✓ 国内外への情報発信
コミュニティのあり方	✓ 「産業界」中心のコミュニティとする ✓ バイオ界全体の連携を強化する ✓ 新たなイノベーションにつなげる

「集積」から「連携」へ！

### アクションプラン (1) イノベーションの促進

社会課題解決のためのオープンイノベーションを推進する責任あるコンソーシアム(分科会)を組織し、1企業、1研究機関では解決できないテーマを取り上げて挑戦する

- 企業発オープンイノベーションの促進
  - 関西企業を中心にテーマを募集し、中核企業が経営陣のコミットメントを得て責任あるリーダーとなる
  - リーダー企業を中心として関西にどまらず国内外の関連機関を巻き込んで分科会を組織し、運営する
- 産学官連携プロジェクトとの連携
  - 国や地方自治体が推進している産学官連携プロジェクトと連携し、必要に応じて分科会に位置付ける
  - 他の分科会との連携を図ると、BioCKのネットワークを活用して全体としての成果の向上をめざす

全ての活動のベースとなる以下の課題については特に注力し、分科会を立ち上げて取り組む

カテゴリ	課題	取組みの方向性
スタートアップ支援	ベンチャー化のハード、人材、資金が不足 海外からの認知度が低い 特に開発後期を担うベンチャー数が圧倒的に少ない	CXO人材の育成(専任計画策定、知財確保など) シリーズB以降の資金調達 大阪、京都、ひょうご神戸コンソーシアム、KSAC、KSIと協力 既存の枠組みにとらわれない資金提供の仕組の構築
人材確保	スタートアップの経営を担うCXO人材の不足 バイオ製造にかかわる人材の不足	人材交流によるCXO人材発掘プログラムの立ち上げ 起業家マインド育成のための高校生へのアプローチ バイオ製造人材育成プロジェクトとの連携
バイオファウンドリ	バイオ製造技術の確立には、技術開発と先行投資が必要 ハブ機能を構築できる大きな強みがある	バイオ製造技術、細胞製造技術に関する力強化 C/DMO、C/MO、事業会社のバイオ製造地点の利活用
データ連携と利活用	バイオ関連データの収集・統合・利用のルール作り 持続的に運用可能なシステムの構築	関西発のデータ連携システム構築 Society 5.0の実現

### 分科会マッピング

環境・エネルギー	食・一次生産	ヘルスケア
バイオメタ分科会 プラスチック分科会 バイオマス分科会 スマートカプセル分科会 フード分科会 木材・CLT利活用DX分科会 KODOBOKU技術を活用した森林環境分科会 デジタル×グリーン	繊維(国産)ウェルビーイング分科会 健康 デジタル×ヘルス ライフスタイルDX分科会 トピカル空間での新たな価値提案分科会	再生医療分科会 医療 モデル分科会 マドックイノベーション分科会 メンタルヘルス分科会 パーソナルデータ分科会 デジタルバイオヘルス分科会 Vision to Connect分科会 健康関連DX分科会 デジタル×ヘルス
<b>バイオものづくり</b> バイオファウンドリ・クラスター分科会 分析・計測分科会 ホワイトバイオ分科会 バイオ産業人材育成分科会	<b>新産業創出</b> 目でバイオの世界をかなる分科会 宇宙バイオ実験分科会 フォトニクス生命工学分科会 未来型都市分科会	
プラットフォーム		スタートアップ分科会

### オープンイノベーションの成功に向けて

<b>社会課題とテーマ</b> ・地球規模の社会課題をどうとらえるか ・バイオでどう解決するか ・実用化が可能なテーマ設定	<b>民間中心</b> ・社会実装のためには民間の力が必須 ・企業トップのコミットが必要	<b>取り組み方</b> ・市民や若手などを巻き込んだワークショップの開催も効果的 ・先進的な取組は、小規模でまわす	<b>人材</b> ・オープンイノベーション人材の発掘 ・インタープルー(社会起点で現場、故に働く人) ・ビジネス展開は技術部門だけでは困難 ・バイオ人材育成も必要
<b>学との連携</b> ・アカデミアのシーズを企業またはベンチャーが実用化する ・シーズの自利性が必要 ・社会課題解決のためにアカデミアが企業に協力するとうる考え方も重要	<b>オープンイノベーションのコア</b>		<b>スタートアップの役割</b> ・イノベーション推進の主役 ・アカデミアと企業の橋渡しにもなる ・フロンティアとなるベンチャーをつくる ・最終的なプロジェクトを伴う会社 ・CXO人材育成 ・アント/フューチャー教育は産学+実学で ・スタートアップへの投資促進
<b>官との連携</b> ・国費の獲得 ・スマートシティ、資源循環、エネルギーなどの分野では自治体との連携が重要	<b>さらなる連携</b> ・デジタル、AIの取組み ・異なるステークホルダーとの掛け合い ・異業種間連携 ・海外連携	<b>データ利活用</b> ・ヘルスケア分野のデータ利活用は必須 ・農業や環境分野でもデータの利活用は重要	<b>関西の特長</b> ・既に見えるコミュニティがある ・フロンティア意識が強い ・イノベーション創出に選んでいる ・議論の場(サロン)の活性化が必要

